

学籍番号

氏名

点数 平均点: 54.21 点 (注1)

1 以下の文章を読んで問いに答えなさい。

$\mathbb{R}$  上のベクトル空間  $V$  において、内積  $(x, y)$  はベクトル  $x, y$  のなす角の情報を与えるための重要な量である。 $x, y$  が零ベクトルでないとき、 $x, y$  のなす角  $\theta$  は、内積とノルム  $\|x\|, \|y\|$  を用いて、(ア) を満たす  $\theta$  として定義される。このような  $\theta$  が定義されるためには、(イ) が必要となる。それは次の不等式である：

- $x, y \in V$  に対して、 $|(x, y)| \leq \|x\|\|y\|$  が成り立つ。

これによって、 $-1 \leq \cos \theta \leq 1$  が成り立ち、(イ) の関係式を満たす  $0 \leq \theta \leq \pi$  がただひとつに定まるのである。

代表的なベクトル空間である  $\mathbb{R}^n$  の標準内積とは、 $x, y \in \mathbb{R}^n$  に対して、(ウ) と定義されるものであるが、一般には  $\mathbb{R}$  上のベクトル空間  $V$  においては双線形性・対称性・正定値性の3条件を満たす実数値  $(x, y)$  が  $x, y \in V$  に対して成立するときに、 $(x, y)$  を  $x, y$  の内積と呼ぶ。

さて、ここで標準内積とは異なる  $\mathbb{R}^n$  を紹介しよう。 $A$  を  $n$  次正則行列とし、 $x, y \in \mathbb{R}^n$  に対して  $(x, y)_A = {}^t x^t A A y$  と定義する。ここで、 ${}^t x, {}^t A$  はベクトル  $x$ 、行列  $A$  の転置を表す。これが  $\mathbb{R}^n$  の内積であることを示すためには、双線形性、正定値性、対称性の3条件を満たすことを示さねばならない。

(1) 上の文章の(ア)、(イ)、(ウ)に当てはまる用語・数式を答えよ。

(2)  $\mathbf{p} = \begin{pmatrix} p_1 \\ p_2 \\ \vdots \\ p_n \end{pmatrix}, \mathbf{q} = \begin{pmatrix} q_1 \\ q_2 \\ \vdots \\ q_n \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^n$  に対して、 ${}^t \mathbf{p} \mathbf{q} = {}^t \mathbf{q} \mathbf{p}$  が成り立つことを確かめよ。

(3)  $(x, y)_A$  の対称性、すなわち、任意の  $x, y \in \mathbb{R}^n$  に対して、 $(x, y)_A = (y, x)_A$  が成り立つことを示しなさい。

(4)  $(x, x)_A$  の正定値性、すなわち、任意の  $x \in \mathbb{R}^n$  に対して、 $(x, x)_A \geq 0$  が成り立ち、等号は  $x$  が零ベクトルのときのみ成立することを示しなさい(ヒント:  $y = Ax$  とおいてみると良いであろう)。

解答例 (1) (ア)  $\cos \theta = \frac{(x, y)}{\|x\|\|y\|}, 0 \leq \theta \leq \pi$  (イ) シュワルツの不等式 (ウ)  ${}^t x y$

(2)  ${}^t \mathbf{p} \mathbf{q} = \begin{pmatrix} p_1 & p_2 & \cdots & p_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} q_1 \\ q_2 \\ \vdots \\ q_n \end{pmatrix} = p_1 q_1 + p_2 q_2 + \cdots + p_n q_n$  および  ${}^t \mathbf{q} \mathbf{p} = \begin{pmatrix} q_1 & q_2 & \cdots & q_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p_1 \\ p_2 \\ \vdots \\ p_n \end{pmatrix} =$

$q_1 p_1 + q_2 p_2 + \cdots + q_n p_n$  から  ${}^t \mathbf{p} \mathbf{q} = {}^t \mathbf{q} \mathbf{p}$  が得られる。

(3) (2) の結果を用いて、 $(x, y)_A = {}^t x^t A A y = {}^t (Ax) A y = {}^t (Ay) A x = {}^t y^t A A x = (y, x)_A$ 。よって、対称性が示された(注2)。

(4)  $\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix} = y = Ax$  とおくと、 $(x, x)_A = {}^t x^t A A x = {}^t (Ax) A x = {}^t y y = y_1^2 + \cdots + y_n^2 \geq 0$  となる。等号成立条件は、

$(y_1, \dots, y_n) = (0, \dots, 0)$ , すなわち、 $y = \mathbf{o}$  である。これは  $Ax = \mathbf{o}$  と同値である。 $A$  が正則行列であるから  $A^{-1}$  が存在するので、 $Ax = \mathbf{o}$  は  $x = \mathbf{o}$  と同値である。故に、正定値性が示された。 □

(注1) 学科別情報

学科別平均点

社環: 51.81 点 建築: 52.47 点 生命情報: 62 点 システム: 55.23 点 生物: 48 点

学科別上位3位

社環: 93 点, 77 点, 77 点 建築: 87 点, 85 点, 79 点 生命情報: 83 点, 82 点, 75 点

システム生体: 88 点, 86 点, 82 点 生物: 71 点, 66 点, 62 点

(注2) 「 $A$  は正則行列なので  ${}^t A A = E$ 」という回答が何件ありましたがこれは間違いです。直交行列と正則行列を勘違いしていますね。

2 行列  $A = \begin{pmatrix} 9 & -7 & 14 \\ -4 & 6 & -8 \\ -6 & 6 & -10 \end{pmatrix}$  について以下の問いに答えよ。

(1)  $A$  は固有値を求めよ。また、各固有値の重複度を求めよ。

(2)  $A$  は対角化可能であるか否か調べ、可能である場合には対角化する行列  $P$  を求めて対角化せよ。

(3) 自然数  $n$  に対して  $A^n \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  を求めよ。

(4)  $\{a_n\}, \{b_n\}, \{c_n\}$  を漸化式  $a_{n+1} = 9a_n - 7b_n + 14c_n, b_{n+1} = -4a_n + 6b_n - 8c_n, c_{n+1} = -6a_n + 6b_n - 10c_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ),  $a_1 = -1, b_1 = c_1 = 1$  を満たす数列とする。このとき、数列  $\{a_n\}, \{b_n\}, \{c_n\}$  の一般項を求めよ。

**解答例** (1)  $A$  の固有方程式は

$$\begin{aligned} 0 = |\lambda E - A| &= \begin{vmatrix} \lambda - 9 & 7 & -14 \\ 4 & \lambda - 6 & 8 \\ 6 & -6 & \lambda + 10 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda - 2 & 7 & -14 \\ \lambda - 2 & \lambda - 6 & 8 \\ 0 & -6 & \lambda + 10 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda - 2 & 7 & -14 \\ 0 & \lambda - 13 & 22 \\ 0 & -6 & \lambda + 10 \end{vmatrix} \\ &= (\lambda - 2)\{(\lambda - 13)(\lambda + 10) + 132\} = (\lambda - 2)(\lambda^2 - 3\lambda - 2) = (\lambda - 2)^2(\lambda - 1) \end{aligned}$$

となるので、 $A$  の固有値は  $\lambda = 1$  (重複度 1),  $2$  (重複度 2) である。

(2) (i)  $\lambda = 2$  について考える。  $2E - A = \begin{pmatrix} -7 & 7 & -14 \\ 4 & -4 & 8 \\ 6 & -6 & 12 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  であるので、 $(E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解

は  $3 - \text{rank}(E - A) = 3 - 1 = 2$  個の任意の定数  $c_1, c_2$  を用いて表される。  $x_2 = c_1, x_3 = c_2$  とおくと  $x_1 = c_1 - 2c_2$

を得る。よって、一般解は  $\mathbf{x} = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  である。

(ii)  $\lambda = 1$  について考える。

$$E - A = \begin{pmatrix} -8 & 7 & -14 \\ 4 & -5 & 8 \\ 6 & -6 & 11 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & -3 & 2 \\ 4 & -5 & 8 \\ 2 & -1 & 3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & -3 & 2 \\ 0 & -3 & 2 \\ 2 & -1 & 3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 2 & -1 & 3 \\ 0 & -3 & 2 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -\frac{1}{2} & \frac{3}{2} \\ 0 & 1 & -\frac{2}{3} \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & \frac{7}{6} \\ 0 & 1 & -\frac{2}{3} \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

より、 $(2E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解は、 $3 - \text{rank}(2E - A) = 3 - 2 = 1$  個の任意の定数  $c_3$  を用いて表される。  $x_3 = 6c_3$  と

おけば、 $x_1 = -7c_3, x_2 = 4c_3$  となる。よって、一般解は  $\mathbf{x} = c_3 \begin{pmatrix} -7 \\ 4 \\ 6 \end{pmatrix}$  である。

(i), (ii) より、固有値の重複度と固有空間の次元が一致することがわかるので  $A$  は対角化可能である。実際、

$$P = \begin{pmatrix} 1 & -2 & -7 \\ 1 & 0 & 4 \\ 0 & 1 & 6 \end{pmatrix} \text{ とおくと、 } P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \text{ と対角化される。}$$

$$(3) P^{-1}A^n P = (P^{-1}AP)^n = \begin{pmatrix} 2^n & 0 & 0 \\ 0 & 2^n & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \text{ より、 } A^n = P \begin{pmatrix} 2^n & 0 & 0 \\ 0 & 2^n & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} P^{-1}. \text{ 掃出し法により、 } P^{-1} = \begin{pmatrix} -4 & 5 & -8 \\ -6 & 6 & -11 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

となるので、

$$A^n \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} 2^n & 0 & 0 \\ 0 & 2^n & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} P^{-1} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} 2^n & 0 & 0 \\ 0 & 2^n & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} 2^n \\ 2^n \\ 0 \end{pmatrix} = 2^n P \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = 2^n \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}.$$

(4) 与えられた漸化式は、 $\begin{pmatrix} a_{n+1} \\ b_{n+1} \\ c_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \\ c_n \end{pmatrix}$  と表される。(3)の結果から、 $\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \\ c_n \end{pmatrix} = A^{n-1} \begin{pmatrix} a_1 \\ b_1 \\ c_1 \end{pmatrix} = 2^{n-1} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  と

なる。  $\square$

3 行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -1 & 0 & 1 \\ -1 & -2 & 3 \end{pmatrix}$  について以下の問いに答えよ.

(1)  $A$  の固有値は 1 と 2 であることを確かめ, 固有値の重複度を求めよ.

(2)  $A$  は対角化可能か否か調べ, 対角化可能である場合には対角化する行列  $P$  を求めて対角化せよ.

解答例 (1)  $0 = |\lambda E - A| = \begin{vmatrix} \lambda - 1 & 1 & -1 \\ 1 & \lambda & -1 \\ 1 & 2 & \lambda - 3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda - 1 & 1 & 0 \\ 1 & \lambda & \lambda - 1 \\ 1 & 2 & \lambda - 1 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda - 1 & 1 & 0 \\ 0 & \lambda - 2 & 0 \\ 1 & 2 & \lambda - 1 \end{vmatrix}$

$= (\lambda - 1) \begin{vmatrix} \lambda - 1 & 1 \\ 0 & \lambda - 2 \end{vmatrix} = (\lambda - 1)^2(\lambda - 2)$  となるので,  $A$  の固有値は  $\lambda = 1$  (重複度 2),  $2$  (重複度 1) である.

(2) 固有値 1 について考える.  $E - A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & -2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  であるので,  $(E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解は  $3 - \text{rank}(E - A) = 3 - 2 = 1$  個の任意の定数  $c$  を用いて表される.  $x_1 = 0$  は確定するので,  $x_3 = c$  とおくと  $x_2 = c$  を得る. よって, 一般解は  $\mathbf{x} = c \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  となる. よって, 固有値 1 に対して固有空間の次元は 1 となつて, 固有値の重複度は 2 と一致しないので,  $A$  は対角化不可能である.

□

4 実対称行列  $A = \begin{pmatrix} -3 & 2 & -2 \\ 2 & -3 & 2 \\ -2 & 2 & -3 \end{pmatrix}$  に対して、 ${}^tPAP$  が対角行列となるような直交行列  $P$  を求めよ。また、そのときの  ${}^tPAP$  を求めよ。

**解答例** 固有方程式は

$$\begin{aligned} 0 &= |\lambda E - A| = \begin{vmatrix} \lambda+3 & -2 & 2 \\ -2 & \lambda+3 & -2 \\ 2 & -2 & \lambda+3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda+3 & -2 & 2 \\ -2 & \lambda+3 & -2 \\ 0 & \lambda+1 & \lambda+1 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda+3 & -4 & 2 \\ -2 & \lambda+5 & -2 \\ 0 & 0 & \lambda+1 \end{vmatrix} \\ &= (\lambda+1)\{(\lambda+3)(\lambda+5) - 8\} = (\lambda+1)(\lambda^2 + 8\lambda + 7) = (\lambda+1)^2(\lambda+7) \end{aligned}$$

となるので、 $A$  の固有値は  $\lambda = -1$  (重複度 2),  $-7$  (重複度 1) である。

①  $\lambda = -1$  について考える。

$$-E - A = \begin{pmatrix} 2 & -2 & 2 \\ -2 & 2 & -2 \\ 2 & -2 & 2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \text{ であるので, } (-E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0} \text{ の一般解は, } 3 - \text{rank}(-E - A) =$$

$3 - 1 = 2$  個の任意の定数  $c_1, c_2$  を用いて表される。  $x_2 = c_1, x_3 = c_2$  とおくと、  $x_1 = c_1 - c_2$  となるので、一般解は

$$\mathbf{x} = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ と表される。 } \mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ において正規直交化を施すとすると, } \mathbf{p}_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix},$$

$$\mathbf{b}_2 = \mathbf{a}_2 - (\mathbf{a}_2, \mathbf{p}_1)\mathbf{p}_1 = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_2 = \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} \text{ を得る。}$$

②  $\lambda = -7$  について考える。

$$-7E - A = \begin{pmatrix} -4 & -2 & 2 \\ -2 & -4 & -2 \\ 2 & -2 & -4 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & -6 & 6 \\ 0 & -6 & -6 \\ 1 & -1 & -2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & -2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

であるので、 $(-7E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解は  $3 - \text{rank}(-7E - A) = 3 - 2 = 1$  個の任意の定数  $c_3$  を用いて表される。

$$x_3 = c_3 \text{ とおけば, } x_1 = c_3, x_2 = -c_3 \text{ となるので, } \mathbf{x} = c_3 \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}. \text{ よって, 固有ベクトルとして } \mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ がとれる。}$$

これを正規化してベクトル  $\mathbf{p}_3 = \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$  が得られる。

$$\text{①, ② より, } P = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{2}} & -\frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{2}} & \frac{1}{\sqrt{6}} & -\frac{1}{\sqrt{3}} \\ 0 & \frac{2}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix} \text{ とおけば, } {}^tPAP = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & -7 \end{pmatrix} \text{ を得る。} \quad \square$$